巣舞る通信 夏の特別号

㈱高田建築事務所　第17号　2010年7月

節目の時！巣舞るメッセージ（住宅見学会）５００回記念の年になりました。

「節目の年だから何かをやる」　Ｖ．Ｓ　「何々をしたから節目が出来た。」

暑中お見舞い申し上げます。
常日頃は、大変お世話になっております。築縁様各位におかれましては、益々お元気にお過ごしのこととお喜び申し上げます。
　さて、節目の年だからこんなイベントを考えてみた！節目の年だから、これこれを計画した！と良く耳にしたり、自分からも話したりすることがあります。
節目の年だから？？でも良く考えてみると、何々をした結果として「節」は出来るものでないでしょうか？
竹の節はわかりやすい。一定の長さになると節を作ることで風や重さに耐えることが出来るのです。でももし節がなかったら竹の中は空洞ですから、ちょっとした風にでも倒れてしまいます。節の間隔も根元に近いほど短くなってますから、上部荷重を支える構造としては自然の理にかなっています。
何れにせよ、成長するため・命を保つためには節は竹にとって必ず必要なのです。リレー競争の勝敗の一因に、如何にバトンを上手く渡すかにあるとも言われています。つなぎ目はいつも負担がかかり、そしてとても大切な役目を果たしています。
　私にとって昨年の12月30日は、大きな年としての節目を迎えました。６０歳・還暦です。還暦は人生の折り返し地点でもあります。
だから還というのです。往路から復路への節目の年です。今までは前だけを向いて進んできました。振り返る事は余りしなかった、と言うより苦手であったといったほうが適切です。しかし今、復路から往路（オウロ）をオロ・オロしながら見ること、これまた楽しからずや！です。

丁度そんな今年に巣舞るメッセージ：住宅完成見学会が秋には５００回目を迎えることとなりました。
第１回は１９８２年ですから２８年経ち２９年目に突入です。
第１回は長岡市内の高田タマ様という農家併用住宅（６０坪位）でした。初めての見学会、どれくらいの人を呼び込むことが出来るか？暗中模索でした。告知するのにアドバルーンを揚げたり、花火を打ち上げたりで賑わいをつくり、正に、会社上げてのお祭り騒ぎになったことを思い出します。
　毎回テーマがあり、チラシにもコンセプトを確りと謳い上げての開催です。最初は何気なく回数をプロットしていたのですが、いつの間にか５００回という節目の回数を迎えることになりました。弊社では二軒と同じ巣舞づくりはしません。建築主様は夫々独自の個性を持っておられるからです。同じ図面を使わないことが礼儀でも有ると固く信じていたからです。毎回の巣舞いづくりは全く個別的・個性的です。何度、足を運んでくださっても、新鮮な感動を体験していただくことが出来るのです。
５００回を迎えるに当たり、想いでは沢山あり、語るには少々のお時間を頂かなければ言い尽くせない回数になりました。会場としてご提供いただいた築縁様には衷心より感謝申し上げます。有難うございました！
継続は力なり！見学会の継続は、それだけで成功といっていいかも知れません。
サクスィード（Ｓｕｃｃｅｅｄ）　イズ　サクセス（Ｓｕｃｃｅｓｓ）！です。
そこで弊社では今年度を“巣舞るメッセージ５００回記念の年”として様々なイベントを計画することになりました。まず、継続の感謝です。築縁様に・木族の会（職人さんｸﾞﾙｰﾌﾟ）に・スタッフ全員に！感謝を表そうというのです。
夏には長岡花火打ち上げ、秋には講演会、シンポジウムを予定させて頂いております。乞うご期待の程を！

㈱高田建築事務所
代表取締役
高田　清太郎

住宅見学会
巣舞るメッセージ500回記念の年

夏 **8月3日　長岡まつり　高田建築事務所と愉快な仲間達で**
ベスビアス超大型スターマイン　打ち上げます！

秋 **10月10日　ホテルニューオータニ長岡にて、**
「歴史」をテーマに講演会とシンポジウムを開催します！

基調講演は、稲川明雄氏（河井継之助記念館館長）による今話題の「坂本龍馬と近代史」(仮)。
シンポジウムは、秋山孝氏（多摩美術大学教授）・斎藤公男氏（日本大学理工学部名誉教授）・コーディネーターは高田清太郎。アート、建築、の各分野からそれぞれの歴史を熱く語って頂きます。お楽しみに！

㈱高田建築事務所
本社/長岡市摂田屋5-6-22
TEL0258（36）1230
新潟/新潟市中央区女池南3-5-15
TEL025（284）4700
TAKADA http://www.takada-arc.com